ＣＦロガー（スクリプト版）　取扱説明書

ＤＴ－ＣＦ０１－Ｓ



(2005.08.16)
この資料は、オートパージ機能を搭載した、バージョン SV001 以降に適応します。

目次

株式会社データ・テクノ

Ⅰ　概要・仕様

概要

ＣＦロガー（スクリプト版）はＲＳ－２３２Ｃから送られてくるデータをＣＦ（コンパクトフラッシュ）メモリカードに保存するボードです。

スクリプト版では、独自のスクリプト言語を記述することにより、データの送信も行なえます。
一定周期で特定のデータを送信したり、ある特定のデータを受信したとき、特定のデータを送信したり、簡単な通信プロトコルが実現できます。

ＣＦメモリカードに保存されたデータや、スクリプトを記述したファイルは、市販のメモリカードリーダにセットすることで、パソコンで読み書きできます。

また、スクリプト言語の動作は、弊社のフリーソフト「ＣＭＬｏｇｇｅｒ」でシミュレートできます。
パソコンで動作を確認してから、ＣＦロガー（スクリプト版）に実装することが出来ます。

スクリプト言語の仕様については別途下記の資料を参照してください。
ＣＦロガースクリプト言語　リファレンス形式
ＣＦロガースクリプト言語　チュートリアル形式

仕様

通信速度（ｂｐｓ）：　３００，１２００，２４００，４８００，９６００，
１９２００，３８４００，５７６００

データビット　：　７ビット　８ビット

パリティ　：　なし　奇数　偶数

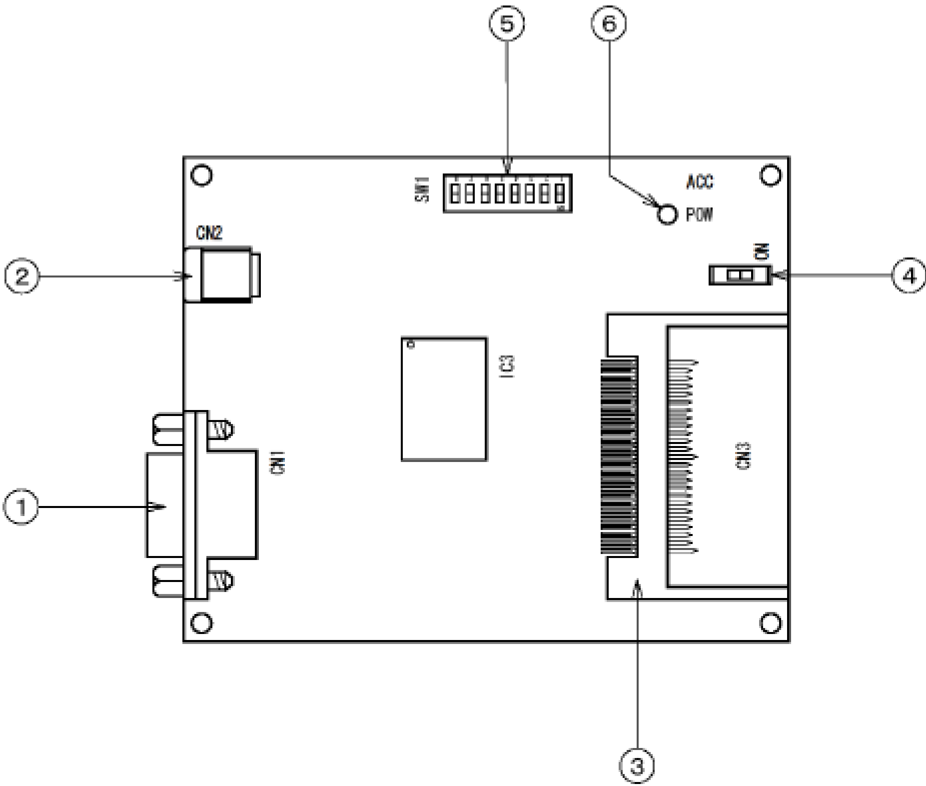
ＣＦメモリー　：　ファイルシステム　ＦＡＴ１６対応

ＲＳ－２３２Ｃ　：　Ｄ－ＳＵＢ　９ピン　コネクター

電源　：　ＤＣ　８Ｖ～１２Ｖ　１００mＡ

注）ＣＦメモリーカード、ＡＣアダプターは付属しておりません。

Ⅱ　各部の名称

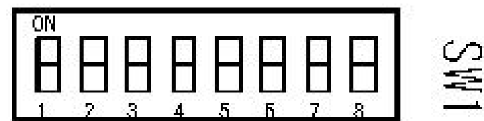


①	ＲＳ－２３２Ｃ　コネクター
②	ＤＣ電源コネクター
③	コンパクトフラッシュメモリ用コネクター
④	スライドスイッチ（ＳＷ２）
⑤	ディップスイッチ（ＳＷ１）ボーレートその他設定
⑥	表示ＬＥＤ（ＰＯ）

Ⅲ　使用方法

１．ディップスイッチの設定

ディップスイッチ（ＳＷ1）



スイッチは左からＳＷ１－１～ＳＷ１－８まであります。スイッチは上がＯＮで下がＯＦＦです。

１－１）ボーレートの設定

ボーレートはディップスイッチの（ＳＷ１－１）から（ＳＷ－３）を設定することによって行います。
スイッチのＯＮ、ＯＦＦとボーレートの対応は下記表のようになります。

速度（ｂｐｓ）	ＳＷ１－１	ＳＷ１－２	ＳＷ１－３
３００	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
１２００	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
２４００	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ
４８００	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ
９６００	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
１９２００	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ
３８４００	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ
５７６００	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ

１－２）データビット

データビットはディップスイッチの（ＳＷ１－４）を設定することによって行います。
スイッチのＯＮ、ＯＦＦとデータビットの対応は下記表のようになります。

データビット	ＳＷ１－４
７　ビット	ＯＦＦ
８　ビット	ＯＮ

１－３）パリティ

パリティはディップスイッチの（ＳＷ１－５）と（ＳＷ１－６）を設定することによって行います。
スイッチのＯＮ、ＯＦＦとパリティの対応は下記表のようになります。

パリティ	ＳＷ１－５	ＳＷ１－６
なし	ＯＦＦ	ＯＦＦ
奇数パリティ	ＯＮ	ＯＦＦ
偶数パリティ	ＯＦＦ	ＯＮ
未使用	ＯＮ	ＯＮ

１－４）メンテナンス

ディップスイッチの（ＳＷ１－８）は弊社メンテナンスのためのもので、通常はＯＦＦにして使用してください。

メンテナンス	ＳＷ１－８
モードＯＦＦ	ＯＦＦ
モードＯＮ	ＯＮ

１－５）予備２

ディップスイッチの（ＳＷ１－７）は予備です。

２．接続

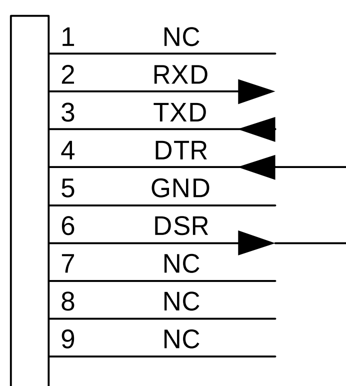
２－１）ＲＳ－２３２Ｃケーブルの接続

ＲＳ－２３２Ｃ　コネクター（ＣＮ１）の接続は間違いのないように各信号を確認してください。

コネクターのピンアサインは下記です。

（パソコンのＲＳ－２３２Ｃと接続する場合はクロスケーブルになります。）

ＣＦロガー



注）７ピンと８ピンのＣＴＳ、ＲＴＳを使ったハンドシェイクは行っておりません。

２－３）電源

ＤＣ電源（ＤＣ８Ｖ～１２Ｖ）はＣＮ２の外部電源ジャックから供給します。

適合プラグは内径Φ２．１、外形Φ５．５のものを使用してください。

（センターがプラスです）

ＤＣ電源を供給する前に、スライドスイッチ（ＳＷ２）をＯＦＦ（ＯＮと反対の方向）にしておいてください。

３．ＣＦメモリのセット

ＣＮ３にＣＦメモリをセットします。

４．スライドスイッチ（ＳＷ２）ＯＮ

スライドスイッチを（ＯＮ）の側にすると電源が入り、ＣＦメモリ内にルートディレクトリーにファイルが作成されます。
ＣＦカードの中にスクリプトファイルが存在する場合は、実行が開始されます。

５．スライドスイッチ（ＳＷ２）ＯＦＦ

データの受信が終わり、作業を終了するには、スライドスイッチを（ＯＮ）と反対の方向（ＯＦＦ）にスライドさせます。ＣＦメモリ内のファイルを閉じたあと自動的に電源が切れます。

これでＣＦメモリをとりはずすことができます。

注）オートパージ機能の搭載により、スライドスイッチを（ＯＦＦ）せずに電源を切っても、書き込んでいる途中でなければ、ファイルシステムを壊すことはなくなりました。
しかし書き込みの途中に電源が切られれば、ファイルシステムを壊す可能性が、やはり残っています。
したがって基本的に電源は、スライドスイッチ（ＳＷ２）で操作してください。
カードに書き込み中でなく、その先もデータが来ないことが保証される場合のみ、直接電源を切ることが出来ます。

６．表示ＬＥＤ（ＰＯ）

ＬＥＤは次のように表示します。以前のＣＦロガーとは仕様が変更されています。

カードにアクセス中	点灯
データをバッファリング中	点灯
通常状態	１０秒に１度、１回点滅
カードが装着されていない場合	１０秒に１度、遅く２回点滅
カードアクセスでエラーが発生した場合	３秒に１度、速く２回点滅
データ通信上のエラーが発生した場合	３秒に１度、速く３回点滅

Ⅳ　ファイル仕様

ファイル仕様

ファイルシステム　　　ＦＡＴ１６

ファイルの名称　　　［４桁の１６進数］．ＬＯＧ

ex
0000.LOG
0001.LOG
0002.LOG

既存のファイル名と重ならないようにファイル名を作成します。

注)・多くのファイルが入っているカードでは、起動されてから、ロギングが開始出来るまでの時間が長くなります。
また、作成できるファイルの数には上限があります。それを越えてしまった場合はロギングできません。ファイルの数には上限は、ある一般的なカードでは５１２個です。

・数多くファイルの作成や消去などを繰り返されたカードでは、空きスペースが連続せずに飛び飛びになっていることがあります。そのようなカードで、高速にロギングしようとすると、書き込みが追いつかずエラーを起こす可能性があります。
どの程度でエラーを起こすかは、使用するカードにもより一概にはいえませんが、あるカードで、最悪の条件では、19200bps 以上で連続データをロギングしようとすると、エラーを起こす例があります。

・ＣＦロガーは、フォーマット直後のカードを使用するのが一番パフォーマンスを発揮できます。

スクリプトファイル

装着されているＣＦカードに「ＳＣＲＩＰＴ．ＴＸＴ」または、
「ＳＣＲＩＰＴ．ＳＣＲ」という名前のファイルが存在すれば、それがスクリプトファイルとして読み込まれます。
スクリプトファイルはスライドスイッチをＯＮし、電源を起動させたときに、読み込まれ、実行が開始されます。

Ｖ　その他

改行コードの扱い

スクリプトファイルでは、ＬＦ（０ｘ０Ａ）を行の終わりと判断します。
スクリプトファイル中に現れるＣＲ（０ｘ０Ｄ）は、無視されます。

オートパージ機能

　オートパージ機能により、スライドスイッチをＯＦＦしなくても、電源を遮断することが出来るようになりました。
　また、不意の電源遮断に対しても、ファイルシステムを破壊させる可能性が少なくなりました。

　オートパージ機能は、３秒間データの受信が途絶えると、ロガー内にバッファしているデータを、カードに書き出します。
　このとき、ファイルシステムの一貫性を保つように書き出しますので、その後次の書き込みが発生するまでのあいだに電源が遮断されても、ロギングされたデータは正しい状態で存在します。

電源を遮断することの出来るタイミング

　電源を遮断することの出来るタイミングは、直前に３秒以上データの受信がなく、その後電源遮断が完了するまでデータの受信が無いときです。
　３秒以上データの受信が無かったことは、ＬＥＤ表示が消灯することで確認できます。
　その後データの受信が無いかどうかは、接続されている装置の状態を確認してください。

注意事項

　オートパージ機能を有していても、カードへの書き込みの途中で電源が遮断されると、ファイルシステムを破壊させる可能性があります。
　電源の遮断は、基本的にはスライドスイッチをＯＦＦにしてから、そうでないなら前述の条件を満たしているときに行なってください。
　しかしもし不意に電源が遮断しても、ファイルシステムを破壊させる確率は、以前よりはるかに少なくなっています。